

JAC AWARD 2023 私が選ぶベスト3



栗田雅俊

株式会社電通 CMプランナー/コピーライター

岐阜県生まれ。

主な仕事に、サントリー「人生には、飲食店がいる。」

「サントリー生ビール/生きれば生きるほど生ビールはうまい!」、日清食品「カップヌードルPRO」、

宝くじ「ロト/彼と彼女と10億男」「クイックワン/秒でできる宝くじ」、

ユニクロ「母の日・父の日（あたしち・ちびまる子ちゃん）」、

パートナーエージェント「ドロンショとブラックジャック」など。

ディレクター部門

★First place

▶ 「認める？」 高原 春菜 (ハット)

「多様性を認めるという正義感が逆に新しいステレオタイプを産んでしまう」、という視点の発見が深く、テーマに対する解像度が高く感じました。映像としても、適切な情報量とトンマナ、非常に丁寧な心理描写と演技で全体として伝えたいことにアクが混じらず澄んでる感じがしてとても見やすく好感が持てました。

★Second place

▶ 「やさしい私」 今井 伸 (AOI Pro.)

多様性の加害者は“やさしい人”かもしれない、という気づきに考えさせられました。映像的なわかりやすさと完成度としては1位でもよかったです。が、「透明な人のように扱われる」というモチーフにやや既視感があるのでそこ勝負だけだったのが少し惜しかったです。ここにもうひとアイデア入れたのではと。

★Third place

▶ 「多サス」 櫻井 美希 (TYO)

映像が上質でキャスティングも秀逸なのに、やっていることは馬鹿馬鹿しいギャップが良かったです。コンプラに対する問題意識をユーモアで訴えているところにも好感が持てました。ただ観ている女の人のツッコミが、説明的でちょっとはしゃぎ感あるのが逆に笑えなくなってきた気がして、テロップだけでやるとか、テレビのナレーションにわかりやすさを担わせるとかもうちょい抑制したらもっとよかったような。

ディレクター個人応募部門

★First place

▶ 「ここだけの話」 小山 瑛司（東北新社）

お尻が続々迫ってくるカットにインパクトがありました。

CGだからこそできることがちゃんとできていて、むしろ逆に安いCGの感じがキャラとしてちょうどよかったです。

ちゃんとテーマにも落とし込んでいて、シンプルながら忘れられない映像になっていたなと思います。ただ最後の一言は余計だったかもしれません。

★Second place

▶ 「本心」 セト タカアキ（アットアームズ）

映像的なびっくり度が全作品中一番あってこの手法でCMつくったら面白そうだな～って思いました。

ドキュメンタリーものかと思ったらギミックもの、という意外性もよかったです。

前半がかなりシンプルなのでもうちょっとだけフリのセリフや、展開、コピーなどに加点があったら、さらに面白かった気がします。

★Third place

▶ 「あなたの好きは…」 三木 章太郎（東北新社）

映像的な設計のされ方、ユーモラスさ、人間の感情の捉え方が丁寧で見やすかったです。

また、ラストのコピーに、新しいことを伝えようとする意思を感じてよかったです。

ただ、「好き」に込めた多様性への思いまでをこれだけで視聴者に理解させるのはちょっと難易度が高いかもしれません。